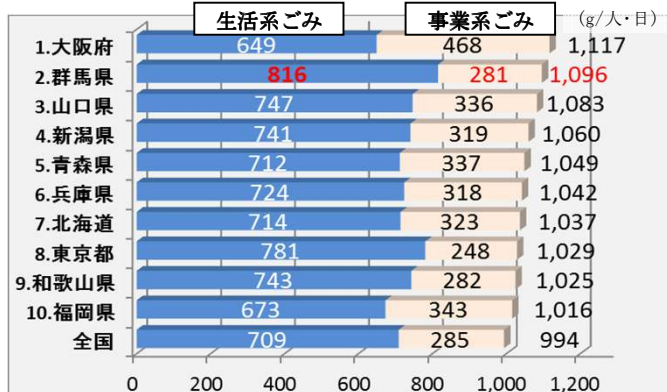


群馬県のごみの排出量と削減具体策の紹介

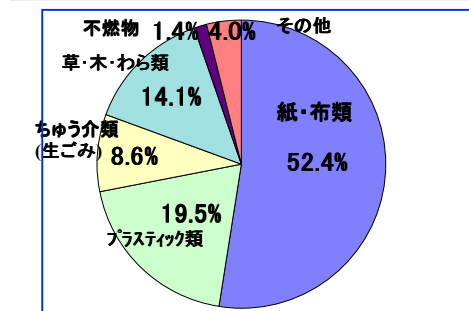
最新(21年度)の環境省の統計データによると、群馬県は、一人一日当たりのごみの排出量が全国でワースト2位、生活系だけで見るとワースト1位です。ライフスタイルを見直し、大量消費・大量廃棄の生活からの脱却を働きかけていきましょう。



一人一日当たりのごみの排出量ワースト10 (平成21年度データ)



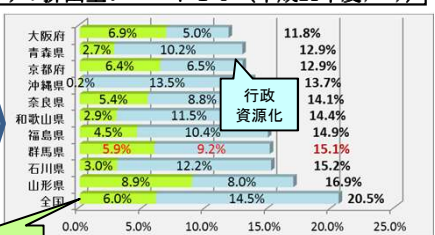
一人一日当たりの生活系ごみの排出量ワースト10 (平成21年度データ)



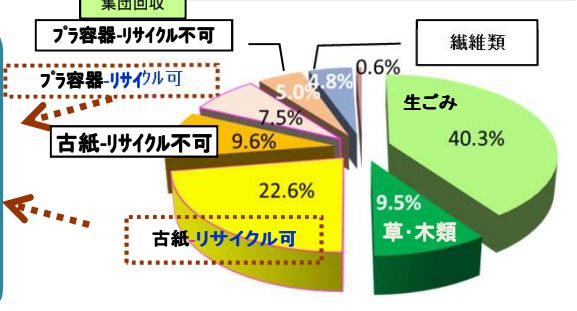
前橋市の21年度ごみ組成(乾燥後の重量比率)

群馬県の一人一日当たりのごみの排出量は、平成15年度に全国値と逆転。以降、年々差が拡大している

リサイクル率も群馬県は15.1%で全国ワースト8位。全国:20.5%に遠く及ばない



可燃ごみのうち、古紙(22.6%)とプラ容器(7.5%)を合わせて、30%はリサイクル可能
⇒ごみ全体の16%に相当し、これが資源として分別回収されれば、前橋市のリサイクル率は、現状14.9%から一気に30%を超え、全国平均(20.5%)を大きく上回る



家庭から排出された状態の可燃ごみ重量比率(前橋市調べ)

家庭のごみの内訳(前橋市を例に紹介)からみるごみ減量の取り組みポイント

前橋市の家庭から排出される可燃ごみの組成を国の基準(乾燥後の重量を測定)で見ると、1位:紙・布類、2位:プラスチック類、3位、4位:草・木類、生ごみでこれは他の市町村も同じ傾向です。前橋市では、家庭から排出された可燃ごみをそのままの状態でごみの内訳を調べました。その結果は、1位:生ごみ 40%、2位:古紙 33%、3位:プラスチック類 13%、草・木類 10%で、そのうち、古紙の70%(全体の23%)、プラスチック容器の60%(全体の7%)、合計で30%はリサイクル可能なものでした。

他の市町村でも、前橋市と同様に資源化出来る多くの古紙(全体の20%程度)などがごみの中に含まれていると思われます。家庭のごみを減らすには、3Rを軸に下記の取り組みが有効です。周りの人にも呼びかけて、生活系ごみの全国ワースト1位の汚名を返上しましょう!

◆ごみ減量の取り組みポイント

- ①リデュース (Reduce: 発生抑制)** ...ごみも資源ももともと減らす、ごみになるものを買わない・もらわない
 - ・ 買い物はマイバッグを持参し、レジ袋を受け取らない
 - ・ 省包装のものや詰替えの出来るものを選ぶ
- ②リユース (Reuse: 再利用)** ...再使用する、繰り返し使う
 - ・ リターナブル(再利用)容器の商品を買う
 - ・ 衣料品はほころびを繕ったり、リフォームして長く使う
- ③リサイクル (Recycle: 再生使用)** ...資源として再び利用する
 - ・ 生ごみは水分を切ってから出す、または堆肥として利用する
 - ・ 古紙、(プラ容器を資源回収している市町村はプラ容器も)は、分別を徹底し、資源として出す(リサイクル率の向上)

23年度センター事業進捗状況

当センターの23年度の事業は推進員の皆さんにご協力をいただき、ほぼ予定通り進行しています。

◇県からの委託事業

- ①地球温暖化防止県民アクション配布・集計業務: 2/28完了予定
- ②環境G S認定事業者等支援事業: 3/19完了予定
- ③地球温暖化防止活動推進員支援事業: 事業完了
- ④家庭用省エネ・節電対策普及啓発事業: 事業完了

◇環境省からの委託事業・補助事業

- ①家庭エコ診断推進基盤事業: 93件診断実施
- ②従業員の家族における取組み支援事業: 2/28完了予定
- ③地域で活動NPO連携促進事業: 3/15コンソーシアム総会で終了

”冬の節CO₂・節エネ・節電”やっていますか？



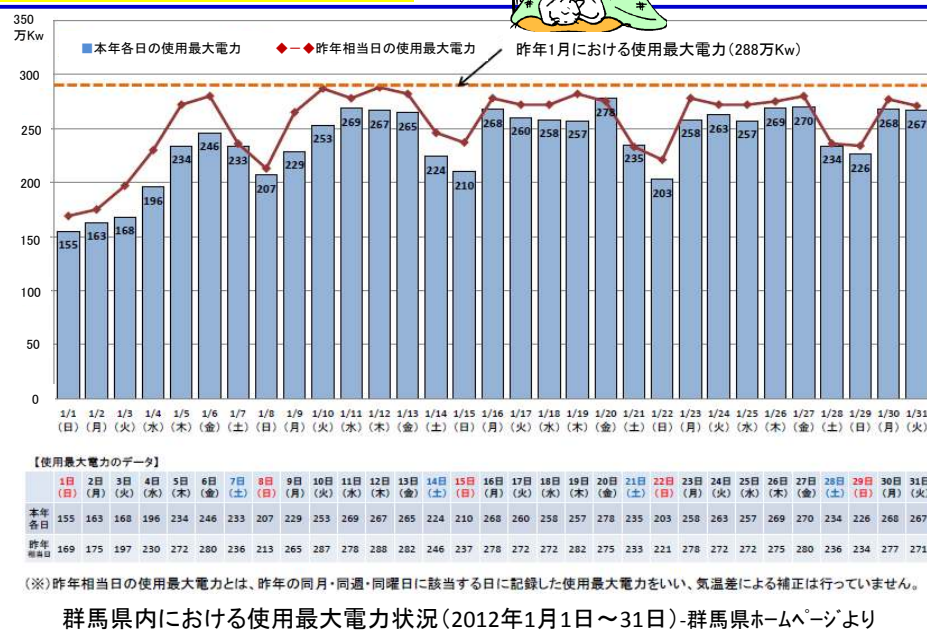
今冬の群馬県内の使用最大電力は、12月、1月ともに昨冬を下回っています。引き続き、節電に心がけましょう。

区分	年月	最大使用電力 (万Kw)	月平均気温 (℃)	最低気温平均 (℃)
昨冬	2010年12月	273	7.2	2.8
	2011年1月	288	2.4	-1.8
今冬	2011年12月	260	4.8	-0.8
	2012年1月	278	2.4	-1.3

◇群馬県、東京電力管内の昨冬と今冬の日毎の使用最大電力は、県のホームページ（下記URL）からご覧になれます。

「群馬県-この冬の節電について」

<http://www.pref.gunma.jp/04/g0100026.html>



推進員さんの活動紹介(第1回)

今号から、各地で活躍している地球温暖化防止活動推進員さんの活動を紹介します。第一回の今回は、伊勢崎市のくらしの会で、家庭で出来る

温暖化防止の取組みを続けている中田さんと、前橋市でグリーンカーテンや学校でのビオトープづくりなど、自然との触れ合いを通じて、子供たちに自然のしくみや生き物の大切さを伝え、そして奇跡の星“地球”を守る気持ち育む活動をされている鈴木さんに登場していただきました。

温暖化防止のため出来ることからコツコツ積み重ねてー中田育代さん(伊勢崎市)

県民アクションの地球温暖化防止隊の隊員として、会に参加して4年目になります。只今、23年度のCO₂削減量を集計中です。

安全安心に暮らしていくために出来ることから皆さんで協力してきました。何をやるかの効果は3つの点で測れるといいます。1つは「直接効果」で、レジ袋を使わないことで、資源の節減・ごみの減量や温暖化防止につながる、2つ目は「間接効果」。レジ袋を断ることで自分と物の関係を見つめ直し広い意味で環境や地球に役立っているという意識。3つ目は使わなくてもいいようにレジ袋を持参することで「自分で気持ちいい効果」です。レジ袋一つで如何なるものでもないが、温暖化による干ばつや水害は現実になっているわけで、私たちは出来ることから、コツコツ積み重ねていけたらいいと思います。

節電効果を高めるために、電気製品を使わない工夫として、アクリル利用の手作りエコモップ(大小)、魔法のエコカイロ(冬季は電子レンジで温めてほかほかカイロ、夏季は冷蔵庫で冷やして冷え冷えカイロ)の活用。使わなくなったネクタイ、スカーフ等も利用しています。

地球温暖化から群馬を、地球を守ろうとコツコツ、活動を続けています。



中田さん手作りの「魔法のほかほかエコカイロ」(サイズ: 14センチ×28センチ)

袋の中身は玄米:180g、米ぬか:180g、塩:50g
電子レンジで600w2分暖めると2時間保温を維持。
夏は冷蔵庫にビニール袋に入れて冷やすと冷却枕として使える

グリーンカーテン、ビオトープ普及に取り組missenか

ー鈴木正知さん(前橋市)



鈴木さんが指導して設置したビオトープで生き物調査をする子供たち

グリーンカーテンはここ数年一般家庭にも広がっているように思います、前橋市内のすべての小・中学校で設置がみられるようになりました。グリーンカーテンをアート調にデザインするものまで見られるようになり楽しんでいる様子もうかがい知れます。

学校へビオトープを取り入れる試みはまだまだですね。今年の10月に環境教育基本法が正式施行されるのを前に学校内にビオトープを取り入れる考え方も検討してほしいですね。小学校においてほとんどの教科でビオトープは活用できます。また地域の環境との結合が強まり生物多様性にもいい影響をもたらします。私は、地域で小学校のビオトープの設置と維持に関わっていますが、維持管理においては地域の人材活用は欠かせません、私は推進員さんがその役に立つ一番近い場所にあると思っています。是非、地域と学校の間で自然環境

コーディネーター的な役割を私たちが担ってみませんか？推進員皆様、得意分野での活躍に期待します。

グリーンカーテン、ビオトープを広めたいと思っている推進員の方、一緒に取り組みましょう。

平成21年度群馬県内の温室効果ガス排出量を公表しました！

平成21年度の群馬県内の温室効果ガス排出量を公表いたしました。活動資料として御活用下さい。

○県内温室効果ガス排出量

統計指標等を用いて推計した平成21年度の県内温室効果ガス排出量は、1,701万8千トンとなり、前年度に比べ、11.1%減少し、2年連続で減少しました。温室効果ガスの約9割を占める二酸化炭素については前年度に比べ6.1%減少しました。

温室効果ガス排出量の減少要因としては次の3点が挙げられます。

- ①平成20年に発生した金融危機の影響によるエネルギー使用量の減少
- ②東京電力の排出原単位の改善(平成20年度:0.418kg/kWh→平成21年度0.384kg/kWh)
- ③県内大手企業による六ふっ化硫黄の排出削減(二酸化炭素換算で約100万トン)等、企業等の排出削減努力

※この推計は、「群馬県温室効果ガス実態調査」(平成21年度実施)の平成19年度の排出量をもとに、鉱工業生産指数、県内エネルギー販売量等の統計指標等を用いた簡易手法によって算出したものです。

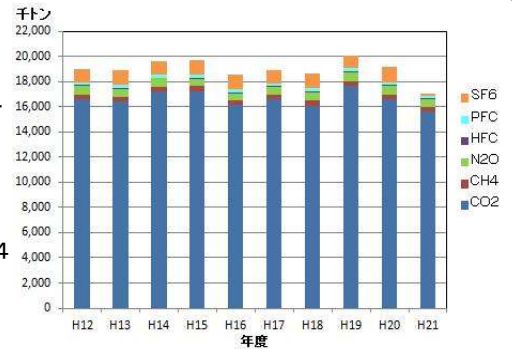


図1 県内温室効果ガス排出量の推移

○部門別二酸化炭素排出量

排出量の約9割を占める二酸化炭素については排出量を部門ごとに算出しております。すべての部門で前年比で減少となっております。要因については以下のとおりです。

・産業部門

平成21年度の排出量は500万7千トン、前年度比11.4%減少。
前年度の金融危機の影響が平成21年度も引き続き残ったため、製造業の排出量が12.2%、非製造業からの排出量が3.2%それぞれ減少。

・業務部門

平成21年度の排出量は252万6千トン、前年度比6.5%減少。
前年度からの減少は、東京電力の電力排出原単位が改善したことなどによる。

・家庭部門

平成21年度の排出量は252万トン、前年度比5.0%減少。
前年度からの減少は、東京電力の電力排出原単位が改善したことなどによる。

・運輸部門

平成21年度の排出量は493万5千トン、前年度比0.9%減少。
平成13年度までは増加傾向にあったが、燃費の改善等により、その後は減少傾向。

・廃棄物部門

平成21年度の排出量は43万7千トン、前年度比3.1%の減少。

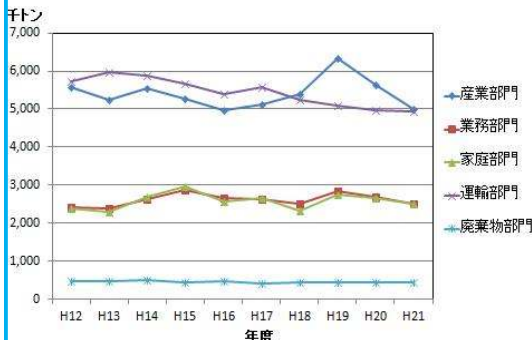


図2 部門別二酸化炭素排出量の推移

※グラフに使用した数値は県ホームページ
(<http://www.pref.gunma.jp/04/e0100156.html>)に一覧表で掲載しております。

第16回子どもエコクラブ交流会を開催しました！

県内の子どもエコクラブの交流を深めるとともに、活動成果の発表を通じ、今後の活動をより充実させることを目的に開催しました。

○日時 平成24年1月21日(土)12:45～15:35

○会場 新町文化ホール・高崎市新町

○参加者 ・子どもエコクラブ(10クラブ、32名) ・緑の少年団(南雲の里緑の少年団、児童2名)

○交流会の実施内容

・子どもエコクラブ活動発表

10のエコクラブの子どもたちが、一年間取り組んできた活動の成果を壁新聞やステージで発表しました。プレゼンテーションソフトを使った発表、劇の中で環境に大切なことを発表したり(台本はクラブの子どもたちが考えたのだそうです)、自分たちが環境保護活動の中で育てた野菜を見せながらの発表などそれぞれのクラブが個性的な発表を見せしてくれました。リハーサルでは緊張した様子をみせたものの、本番ではどのクラブもしっかりやってくれました。

・南雲の里緑の少年団活動発表

渋川市立南雲小学校が学校をあげて年間で行ってきたヒメギフチョウの保護活動の様子と「緑の少年団国際交流事業」(平成23年8月ロシア、ハバロフスクで開催)の体験を発表しました。ロシアの自然の中で様々なアクティビティを行った様子や、自然保護区の見学など、ロシアでの環境活動に触れ、見ている私たちも「なるほど」と思える発表でした。

・エコクッキングゲーム

ゲーム指導者にぐま食育サポーター 笛木 京子さん 他4名を迎え、買い物からみる環境問題をゲームを通して学びました。架空の通貨「ポン」を使う架空の国でカレー作りの材料を買うという設定でゲームは行われました。見た目に安いからといって何も考えずに材料を買ってしまうと、過剰包装されているため、後から多くのごみ処理費を請求されてしまいます。1回目の教訓を活かし、2回目のゲームでは子どもたちが目の色を変えてごみ処理費のかからない、ごみの出ない商品を選んでいました。その結果、処理費もごみの数も驚くほどに減らすことができました。

※子どもエコクラブとは？

子どもエコクラブは、平成7年度に制度が創設され、幼児から高校生までならだれでも参加できる環境省がサポートする環境活動クラブです。県内では現在、42クラブ3,755名が登録されています。サポーターと呼ばれる大人たちと一緒に、学習会や環境調査、生物調査、農業体験、清掃活動などに自主的に取り組んでいます。



環境関連情報

COP17の結果紹介

昨年12月に南アフリカで開催された国連気候変動枠組み条約第17回締約国会議（COP17）は、会期を二日間延長して“ダーバンパッケージの合意”にこぎつけました。

日本は、京都議定書の第2約束期間（CP2）には参加せず、2013年以降、法的削減義務を負わないことになり、新たな国際的枠組みが発行される2020年まで自主的に削減を進めることになります。

◆COP17の合意内容（ダーバンパッケージ）

- ①米中含む新しい国際的枠組みの2020年発行
- ②京都議定書第2約束期間の設定
- ③「カンクン合意」の実施

エコドライブでCO₂を減らそう

日本の全CO₂排出量のうち、運輸部門からの排出量は20%その90%が自動車から。自動車のうち自家用乗用車が49.4%
⇒自家用乗用車が全CO₂排出量の10%を占めています。
⇒エコドライブを実践して、みんなが10%燃費改善で全CO₂排出量の1%、20%燃費改善で全CO₂の2%削減になります。

誰でもできるエコ運転術

走行パターンと燃料の消費

車は、発進、巡航、減速、停止の4つのパターンを繰り返しながら走行しています

市街地走行の場合、走行パターン別の燃料消費量は右記のようになります。

発進時と巡航時の燃料消費が多いことが分かります

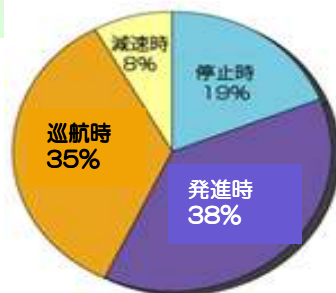
エコドライブの基本



- ①エコドライブの姿勢は正しい運転姿勢から
- ②発進は一呼吸おいて、ふんわりスタート（時速20Km/hまで5秒かけることで燃費11%改善）
- ③先の状況をよく見て、アクセル一定で走行
- ④停止位置を予測して、早めにアクセルを足から離す（燃料カット＝フューエルカットが作動し燃料を大幅に抑えることができる）
- ⑤アイドリングストップ（5秒以上の停止はアイドリングストップの効果あり）



走行パターン別の燃料消費比率



出典：（財）省エネルギーセンター「スマートドライブコンテスト」での車載センサーによる走行データより



④ エコドライブ（減速時イメージ）



センターからのお知らせ

◆センターのホームページをご覧ください

ホームページURL <http://www.gccca.jp/>

◆センターの集いに参加しませんか

センターでは、毎月センターに集まって、地球温暖化防止活動に限らず、みんなでテーマを出し合って、よろず語り合い・情報交換を行っています。

2月は、21日（火）10時～15時に行います。テーマは「再論！温暖化懐疑論を自分たちで考えてみよう」です。都合のつく時間にご参加ください。お待ちしております。テーマも募集中です。センターにご連絡下さい。

編集・発行

群馬県地球温暖化防止活動推進センター
〒371-0016 前橋市城東町2-3-8
TEL：027-237-1103 FAX：027-232-1104
MAIL：info@gccca.jp

群馬県環境政策課
〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
TEL：027-226-2817 FAX：027-243-7702
MAIL：kanseisaku@pref.gunma.jp

